

科目名	臨床病態学V (小児科学) Clinical Pathophysiology and Therapeutics V		担当教員 (研究室番号)	藤澤 隆夫(非常勤) 貝沼 圭吾(非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	kyomutanto@ml.mcn.ac.jp					
履修 年次	2年次 後期	科目 区分	専門支持科目		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
科目 目的	小児の健やかで幸福な成長をサポートするために、常に変化(発育・発達)する小児の特徴を理解して、小児期の疾患の予防と治療、看護援助の基本を習得する。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。										
	関連する DP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
到達 目標	1. 小児の発育・発達について説明することができる 2. 小児期に特徴的な疾患の病態生理を説明することができる 3. 小児期疾患に対する治療と予防の概念、看護援助の基本を説明することができる											
成績評価方法 (基準)	試験(80%)、レポート(20%)、出席状況(出席していることが評価の前提)											
再試験の有無と 基準等	願いにより実施											
教科書	系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)											
参考書等	必要時に提示											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	小児診療においては、常に発育・発達のどの時期にあるのかを念頭に置く必要があります。講義では多くの疾患を網羅するのではなく、小児期に特有な疾患、とくに重要なものにポイントを絞り、『なぜこの病気が起こるのか?』『どうしてこの治療をするのか?』という点を中心に解説したいと思います。単なる暗記でなく、「考える小児看護」を勉強してください。講義で触れなかった疾患については、自己学習して、不明な点は講義の期間に質問してください。											
備考												
回	学習項目				学習内容				担当 教員	授業 方法		
1回	小児の発育・発達と疾病が与えるインパクト				(小児臨床看護総論を中心に) 正常の発達・発育過程を理解した上で、各時期における疾患が及ぼすインパクトを考える。疾患をもつ小児へのアプローチの基本を学ぶ。				藤澤	講義		
2回	先天異常と新生児疾患				(小児臨床看護各論 1, 2章) 新生児期の疾患を概説する。先天異常や低出生体重児に起こりやすい合併症に関して解説する。また乳幼児突然死症候群についても概説する。				貝沼	講義		
3回	小児期に特徴的な感染症				(小児臨床看護各論 6章) 感染症は最も頻度の多い小児疾患である。新生児・乳児・幼児期にみられるウイルス感染症と細菌感染症について学習し、予防接種の重要性を理解する。				藤澤	講義		
4回	小児の免疫・アレルギー疾患・呼吸器疾患				(小児臨床看護各論 5, 7章) アレルギー疾患としての気管支喘息、食物アレルギー、免疫異常としてのリウマチ性疾患などについて、病態に基づいたケアの基本を学ぶ。				藤澤	講義		
5回	小児の代謝・内分泌疾患				(小児臨床看護各論 3, 4章) 小児に特有の内分泌/代謝疾患を概説する。発育/発達の軸に沿って、先天性代謝異常(新生児マススクリーニング)、小児糖尿病、成長障害に関わる内分泌疾患などを取り扱う。(レポート課題提示)				貝沼	講義		
6回	小児の循環器・消化器疾患				(小児臨床看護各論 8, 9章) 小児期に特有の疾患群を概説する。肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、先天性胆道閉鎖症、先天性心疾患の病態とケアのポイントを学ぶ。				貝沼	講義		
7回	小児の血液疾患・悪性腫瘍・腎疾患				(小児臨床看護各論 10, 11, 12章) 小児でよくみられる貧血、出血性疾患の病態を理解し、造血器腫瘍、固形腫瘍では成人と異なる小児期の特徴を整理する。急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群				貝沼	講義		
8回	小児の神経疾患・小児科に受診する精神疾患				(小児臨床看護各論 13, 18章) 小児期に多い痙攣性疾患(熱性痙攣、てんかん)を理解する。小児科を受診することが多い精神疾患(発達障害、摂食障害など)を知る。(レポート提出)				貝沼	講義		

学 習 課 題

第5回でレポート課題を提示します。

課題例：1型糖尿病を発症した13才女児への疾患教育とサポート

川崎病の児の母への疾患説明とサポート

アドヒアランス不良の喘息児への疾患説明とサポート

ワクチンで予防可能な疾患の症状とワクチンスケジュール

熱性痙攣で救急受診した児の家族への説明

第8回にレポートを提出してください。

実務経験を活かした教育の取組